

## 指導部だより

指導部高等学校教育指導課 統括指導主事 森田 常次

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策と生徒の学びの保障との両立を図り、学校の「新しい日常」を定着させていくことが求められました。このような中、先生方におかれましては、学習活動の重点化、学校とオンライン学習等による家庭学習とを組み合わせたハイブリッドの教育活動の工夫などの「Withコロナ」「Afterコロナ」へ対応されてこられたと思います。更に、令和4年度の新入生から全面実施される新学習指導要領に向けて、指導方法や評価の在り方などの研究を進められていることと思います。

高大接続改革の一つである「大学入試センター試験」に替わる初めての「大学入学共通テスト」が1月に実施されました。第一日程、第二日程、特例追試験を合わせた受験者数は、484,114人(昨年度527,072人)であり、昨年度よりも少なくなっています。受験者数減の要因として、「大学入学共通テスト」の実施方法等に関する変更、総合型選抜や学校推薦型選抜等の拡大、新型コロナウイルス感染症の影響などが考えられます。また、実施された大学入学共通テストの分析については様々ですが、感染症に関する題材やストライド走法とピッチ走法を関連付けた問題など、複数の資料を関連付けた問題や日常生活に関連した問題が多く出題されていました。難易度については、第一日程の平均点が「数学Ⅰ・A」で57.68点(昨年度51.88点)、「数学Ⅱ・B」で59.93点(49.03点)、第二日程の平均点が「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B」とともに平均点が30点台と報道されています。受験者数の減少、第一日程と第二日程の平均点の差、試行調査と本試験の難易度や出題傾向については、これからの数年間かけて様々な角度から分析する必要があります。当課でも、情報を収集するとともに、どのような資質・能力の育成が必要なのかを分析したいと思います。

また、令和4年度から実施される新学習指導要領では、各教科等において観点別評価が導入されます。高等学校に先んじて、小学校及び中学校向けの『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』が文部科学省国立教育政策研究所から発行されています。高等学校向けの資料については、令和3年度になると連絡がありました。高等学校での観点別評価については、十分でなかったと指摘されています。そこで当課では、文部科学省国立教育政策研究所から発行された中学校版を基に、「指導と評価の一体化を目指して」の「Ⅰ理論編」を令和2年11月に発行し、観点別評価についての校内周知等を依頼してまいりました。さらに、令和3年度には、評価委員会を設置し、各教科等の評価についての検討、「Ⅱ実践編」の発行をしてまいります。

いよいよ、新学習指導要領の実施が1年後となりました。新学習指導要領の趣旨に沿った観点から、学習評価に関する研究が益々重要になります。東京都高等学校数学教育研究会の皆様には、東京都教育委員会の推進する授業改善の取組を一層進めていただくとともに、数学教育の在り方についての研究を進めていただき、東京都の数学教育の更なる発展に御尽力くださいますようお願い申し上げます。

## 東京都教職員研修センターだより

研修部専門教育向上課 指導主事 加藤 裕一郎

東京都における教育振興基本計画として平成31年3月に策定された「東京都教育ビジョン(第4次)」では、基本的な方針2の施策展開の方向性④「科学的に探究する力を伸ばす理数教育を推進」が示されております。具体的には、「理科と数学の知識や技能を総合的に活用した探究活動を中核とした指導方法などを研究開発し、課題を解決する力や新たな価値を創造する基礎的な力を培う」となっております。教職員研修センターでは、そのために必要な教員の専門性や指導力の向上を目指した研修の充実に取り組んでいるところです。

当センターで実施する専門性向上研修では、「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」に基づき、研修の対象や人材育成の基本的な事項を踏まえた内容としております。「Ⅰ」を付した研修は、基礎形成期・伸長期と位置付け、1年目から8年目までの教諭を、「Ⅱ」を付した研修は、充実期と位置付け、9年目以上の教諭と主任教諭を、「Ⅲ」を付した研修は、発展期と位置付け、11年目以上の教諭、主任教諭、主幹教諭等を対象としております。

令和2年度は、「数学Ⅰ」及び「数学Ⅱ」の研修において、文部科学省の主任視学官、教科調査官等をお招きし、新学習指導要領の実施に向けた指導のポイント等について御講演をいただきました。また、「数学Ⅲ」の研修では、東京理科大学と連携した研修を実施しました。

さて、1月には、初の大学入学共通テストが実施されました。数学Ⅰ及び数学Ⅰ・数学Aでは、100m走のタイムが最小となるストライドとピッチを求める問題が出題されました。この内容は、「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数学編」に記載されているイメージ図(「算数・数学の学習過程のイメージ」)にある「日常生活や社会の事象の数学化」に該当するものです。令和3年度の研修では、文部科学省の教科調査官等をお招きし、新学習指導要領で求められる指導のポイントに加え、中央教育審議会答申(令和3年1月)で示された「個別最適な学びと、協働的な学びの実現」や「探究的な学びや、STEAM教育など実社会での課題解決に生かしていくための教科等横断的な学び」について御講演いただくことを予定しております。なお、令和3年度の研修名と募集対象校種は次のとおりです。

研修名	募集対象校種
算数Ⅰ	小学校・特別支援学校
数学Ⅰ	中学校・特別支援学校
数学Ⅰ	高等学校・特別支援学校
算数Ⅱ	小学校・特別支援学校
数学Ⅱ	中学校・特別支援学校
数学Ⅱ	中学校・高等学校・特別支援学校
数学Ⅲ	中学校・高等学校・特別支援学校

※詳細は、令和3年4月以降、研修案内を御覧ください。

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、研修を実施します。先生方におかれましては、当センターの研修を積極的に活用し、指導力の向上につなげていただくことを期待しております。